

平成18年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議会議録

日時：平成18年6月22日（木）10:00～12:00

場所：トキハ会館6階「さくらの間」

1. 開会
2. 大分県知事あいさつ
3. 会長あいさつ
4. 委員紹介
5. 議事
 - (1) 少子化の現状等について
 - (2) 平成18年度の主な少子化対策事業等について
 - (3) 意見交換
 - (4) その他
6. 閉会

1. 開会

【司会】 本日は、皆様方には何かとお忙しい中をご出席いただきましてありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、県少子化対策課の後藤でございます。県では、会議は公開を原則としております。本日の会議も公開して行うこととしておりますので、傍聴席を設けております。

また、会議録や会議資料につきましては、原則として、全て県庁ホームページに掲載することとしておりますので、ご了解いただきますようお願いいたします。

それでは、ただ今から「平成18年度第1回おおいた子ども・子育て応援県民会議」を開会いたします。はじめに、開会にあたりまして、広瀬知事から皆様にごあいさつを申し上げます。

2. 大分県知事あいさつ

【大分県知事：広瀬勝貞】 皆さんおはようございます。

18年度の「おおいた子ども・子育て応援県民会議」につきまして、大変お忙しいところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。よろしく申し上げます。

また、日ごろから、大分県の子ども・子育てにつきまして、いろいろとご意見をいただいたり、あるいはまた、実際にいろんな活動をしていただいたりというようなことで、何かとご尽力をいただいております、このことについても心から御礼を申し上げる次第でございます。

少子化ということが言われて久しいわけでございますけれども、いよいよ大分県も平成17年合計特殊出生率が1.40から1.39ということになってしまいました。実数の方も1万人を切りまして、9,700人台ということになってしまったわけでございます。全国の議論と同じように、県としてもやはりこの少子化対策に真剣に取り組まなければならない時

期にきているというふうに思っているところであります。

よく言われることでございますけれども、子どもを生み育てるといことは、厳粛な個人の意思決定の中で出てくることでございますけれども、我々としては、そういう意思決定にあたって、できるだけ子どもを生み育てやすい環境をつくっていくということが大事ではないかと、環境を整えておくということが大事ではないかというふうに思っているところでございます。そのためには、行政、あるいは家庭、地域、職場そういうところが一体となって、子育て、子どもを生み育てやすい環境をつくっていくということが大事でございます。

そして、また、そのためによく言われる経済的な負担について、やはりできるだけ軽減をする努力もしていく必要があるといったようなことも考えられるわけでございます。あらゆる可能性を追求しながら環境の整備に努めたい。そして子育てをしやすい、あるいは楽しく子育てができるような環境をつくっていくということではないかというふうに思っているところでございます。

17年度もこういう県民会議をさせていただきました。そして、この県民会議でいろんなご議論をいただいたところでございます。そして、18年度の予算の中で、1つは経済的な負担の軽減という意味で、これまでの保育に関する応援体制に加えまして、これもこれまでやってまいりましたけれども、乳幼児の医療費の支援ということについて、これまでは3歳までということだったわけですが、今度、就学前まで無料化をするというようなことで、制度の拡充をやらせていただきました。また、いろいろ企業の皆さん方にも応援をしてもらわなきゃいけないということで、子育て応援団といいますか、お子さんの多い家庭の皆さんが買い物に来たときに、ディスカウントをしましょうというような企業を募って、応援団としてぜひ子育て環境の整備に参画をしてもらおうとか、あるいはまた、そもそも出会いの場が少ない。したがって、出会いを応援してくれるといいなというようなことで、そんなことも18年度制度化したところでございます。

そんなことで、昨年度の県民会議で大変有意義なご議論をいただき、ご提案をいただきました。その中で、できるだけ、しかも迅速に予算化、制度化をするというようなことも努力をしてきたところでございます。国の方もようやくこの少子化対策、子どもを生み育てやすい環境づくりということについて、政策の中心に据えていこうというような動きも出てきておりまして、これから国、地方、あるいは地域、あるいは企業、みんなで子育てのしやすい環境づくりが進んでいくのだろうというふうに思うわけでございます。そんなときにあたりまして、この県民会議で、子育てとは何か、そしてまた、その子育てのしやすい環境をつくるためには、どういうことをやったらいいかというようなことについて、ご議論をいただくというのは、誠に大事なことでないかというふうに思っております。

皆様方には、ぜひ活発なご議論をいただき、また、行政に対してアドバイスをいただければと、切に願う次第でございます。なにとぞ、よろしくお願い申し上げます。

3. 会長あいさつ

【山岸会長】 皆さんおはようございます。お隣の大嶋副会長とともに、私たち、また今年、一生懸命務めていきたいと思っております。どうぞ協力よろしく願いいたします。それでは、今日の会議の開催にあたりまして、ごあいさつ申し上げます。

先般、17年の人口動態統計の発表がありました。大分県の場合も、全国の例に漏れず、

出生数の減少、そして出生率の減少にまだ歯止めがかかっておりません。次代を担う大分の子どもたちが、生きる喜びを感じていく、そして心豊かでたくましく育つことができる県、また、若い世代の人たちが子どもを育てることに、喜びや希望を感じることができる大分県をつくることは、私たちが取り組まなければならない最も重要な課題ではないかと思っております。

そのためには、子どもや子育て家庭の支援、そしてサービスを充実させていくことも重要ですが、さらには、家庭や地域、職場で県民一人ひとりが、職場優先の企業風土の是正、それから男女共同参画の推進、また、顔の見える地域社会の再生といった、働き方や暮らし方、人との関わり方などについても、また再検討、見直しも必要ではないかと思っております。

今日は、委員の皆様方に、それぞれのお立場から、日ごろの経験も踏まえて積極的にいろいろな意見を出していただきたいと思います。また、会議が実りのあるものとなりますよう、皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、私からのあいさついたします。

4. 委員紹介

【司会】 それでは、ここで、平成18年度に新しく県民会議委員になられた方々をご紹介します。

設置要綱第4条の規定によりまして、委員の任期は2年、公募の方法によって選任された委員の任期は1年となっております。今年度新たに公募委員になられた方4名と、前委員の異動などにより、その後任として委員にご就任いただいた方をご紹介します。

50音順にお座りいただいておりますので、配席順にご紹介いたします。

まず、公募委員の青柳理郎委員でございます。青柳委員は、昨年度に引き続き、公募委員の募集に応募され、公募委員選考委員会において、今年度も委員にご就任いただくことになりました。

次に、公募委員の後藤みか委員でございます。後藤委員も、青柳委員と同じく、昨年度に引き続いて、公募委員にご就任いただくことになりました。

次に、公募委員の田中一旭委員でございます。

大分県PTA連合会の西村多恵子委員でございます。

大分県高等学校長協会の濱田ミチヨ委員でございます。

公募委員の吉永陽介委員でございます。

そのほかに、市町村代表といたしまして、別府市福祉保健部長の宮津健一委員、大分労働局から雇用均等室長の池田真澄委員が、前委員の退職、異動によりまして今年度新たに委員に就任されましたが、本日は所用のため欠席でございます。

なお、本日は、大分県PTA連合会の馬越敦子委員、後藤美和委員、大分県商工会議所連合会の柴田文子委員、日本労働組合総連合会大分県連合会の高浦加代子委員も所用のため欠席でございます。

続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。

大津留福祉保健部長でございます。

田代福祉保健部審議監でございます。

光永少子化対策課長でございます。

平原少子化対策課参事でございます。

それでは、これより議事に入らせていただきますが、設置要綱第5条の規定によりまして、以後の議事進行を山岸会長にお願いいたします。

5. 議事

【会長】 それでは、この後は座ったまま進行させていただきます。

本日は、議事は議題として3つあるのですが、最初に議題の1「少子化の現状等について」と、議題2「平成18年度の主な少子化対策事業等について」を、併せて進めたいと思います。

まず、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】 では、私の方から説明をさせていただきます。恐れ入ります、座って説明させていただきます。

皆様方には、「おおいた子ども・子育て応援県民会議資料」ということでお配りさせていただいております。また、併せて「18年度の対策関連事業」ということ、それと、本日お手元の方に急遽配付させていただきましたけれども、国の方で、新しい少子化対策ということで出ておりますので、それについても、併せてご説明をさせていただきたいと思います。

最初に、県民会議資料に基づきまして説明をさせていただきます。

1ページをお開きいただきたいと思います。

出生数、合計特殊出生率の年次別推移ということで掲げております。上の表と下の折れ線グラフ、棒グラフあわせてご覧になっていただきたいと思いますのですけれども、平成17年の本県の出生数は9,783人、合計特殊出生率も1.39ということで、いずれも過去最低でございました。

過去、昭和22年から24年の第1次ベビーブーム、それから昭和46年から49年の第2次ベビーブームということで、若干山があったのですが、折れ線グラフで見いただきますとわかりますように、だいたい右肩下がりの状況が続いてきておりまして、人によりますと、第3次ベビーブームはなかなか来ないのではないかという状況でございます。

ちなみに、大分県の全国順位ということで右の方に載せておりますけれども、平成16年が16位でございましたけれども、17年は10位になっているというところでございます。

2ページをお願いいたします。

少子化関連指標ということで載せておりますけれども、最初が年齢区分の人口構成比でございます。

2005年の欄を見ていただきますと、0歳から14歳が13.7%、15歳から64歳が62.1%、65歳以上24.1%ということで、概ね62人で残りの方を支えているという社会構造でございますけれども、これが2030年になりますと、0歳から14歳が11.3%、65歳以上が33.9%ということで、15歳から64歳は54.8%で8ポイントほど下がる、こういう社会になるだろうと想定しております。なお、ここにおきましては、合計特殊出生率を1.4程度で計算しておりますので、若年層はもうちょっと下がってくるのかなという感じでございます。

下が、学校数、児童、生徒数ということで、折れ線グラフなり棒グラフで示しております。例えば小学生数につきましては、昭和55年の11万6,000人をピークに、以降ずっと

下がっています。同様なことが中学生、高校生でも言え、中学生の卒業者数で見てくださいと、端的にわかると思いますが、昭和63年3月に2万147人の卒業者がいましたけれども、平成18年3月は1万1,840人ということで、このままの状況が続きますといずれ1万人を割ってしまうかなという状況にあるということでございます。

その下が、農家人口の構成比ということで、平成7年、12年、17年と分けております。やはり左の方の若年人口という割合がずっと下がっていったことがわかると思います。なおかつ、ここは絶対数を挙げておりませんが、平成7年の農家人口は24万ほどありました。それが12年には21万、平成17年には12万ということで、絶対数も下がるし、17年の段階で70歳以上や60歳から69歳という年齢層がリタイアしたときにどうなるかということで、少子化対策と言いますが、地域づくりの観点も必要になってくるのかなと思います。

その下、医療機関についても、やはり年々小児科や産婦人科も少なくなってきました。

子ども関連市場については、大分県のデータが取れませんでしたので、全国ベースですけれども、やはり子どもさんが少なくなってくるにつれて、市場規模というのも下がってきているということでございます。

3ページをお願いいたします。

ここは、もう改めて委員の皆様の説明するのちょっと失礼かと思いますが、少子化のフローチャートということで、左が16年版の少子化社会白書、右が17年版の少子化社会白書ということで掲載しております。少子化の原因ということでよく言われていることとして、未婚化の進展、晩婚化、夫婦の出生力の低下があります。若い世代の結婚観や価値観の変化、結婚の先送り現象といったようなことも言われております。

下段には、数値を上げておりますけれども、未婚率については、男性が30歳から34歳の2000年の数値で38.1%、3人に1人はまだ未婚です。同様に女性の30歳から34歳では26.6%と、4人に1人以上は独身であるという状況です。これを30年前と比べると、やはり相当に数値が上がってきています。

同様に、晩婚化ということで、数値の方を見てくださいと、平均初婚年齢は、1985年に男性27.9歳であったものが、2005年は2歳ほど上がりまして29.1歳、女性は25.4歳が、27.8歳ということで2歳ほど上がってきているということでもあります。

さらに、夫婦で生む子ども数が少なくなっているというのが、平均出生子ども数ということで出ております。平成4年の段階では、35歳から39歳までの女性が2.15人産んでいたのが、2002年には1.90人ということで、やはり若干下がってきています。

少子化の原因は、未婚化、晩婚化、出生力低下ですけれども、それを取り巻く要因というのは、また様々あります。例えば育児、教育コストがかかる、仕事と子育ての両立の負担感がある、あるいは、夫の育児の不参加、妻の精神的・身体的負担の増大等諸々のことがあります。これらのことについて、やはり総合的に手厚く支援していくことが必要かなというふうに考えております。

このような中での少子化対策ということで、例えば生まれてきた子どもの健全育成であるとか、経済的支援ということでは、児童手当、奨学金、税控除など、あるいは保育サービスを充実したり、育児休業の取得促進、仕事と家庭の両立に関し、企業の取り組みを推進して

いく、諸々のここに上げているような施策が必要であるということでございます。

これを右の子どもの年齢から見た子育て支援策で見てみます。出産から大学を出るまでを横軸とし、まず妊娠の段階で、今、国の方でも、妊娠について医療費をどうしようかというお話が出ておりますし、不妊治療費について、県の方でも、連続2年を通算5年ということで、今年、不妊治療費助成の拡充をいたしました。あるいは、育児休業制度はあるけども、取らなければ意味がないですし、あるいは育児休業が明けた後に短時間勤務ができる制度や、一度仕事を辞めた母親の再就職支援も必要です。このようなことを一般事業主の行動計画の推進ということで、今後はやはり取り組んでいかなければいけないのかなというふうに思います。サービスの面でいきますと、保育所や幼稚園、さらにその総合施設といった新しい施設サービスというのも考えていかなければいけませんし、放課後児童クラブについても、まだまだ充実していく必要があります。あるいは、専業主婦の方に対する子育てサービスということもやはり必要だということで、地域の子育て支援にも力を入れていかなければいけないと思います。

経済的支援については、児童手当は、今年度小学校6年修了前までということになりましたが、今国の方で乳幼児加算の提言がなされているところであります。

4ページをお願いいたします。

県の方では、「おおいた子ども・子育て応援プラン」ということで、2つの基本目標、7つの基本施策の下に施策を展開しているところでございますけども、平成18年度の主要事業について掲げております。

例えば、1の「子どもの成長と子育てをみんなで支える意識づくり」では、民間企業協働型子育て支援事業ということで、先ほど知事がちょっと申し上げました、「とくとくサービス」ということで、企業の協力を得た経済的支援を行うこととしております。

3の「きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援」では、例えば二豊学園整備費、4の「子どもが健やかに生まれ育つ環境づくり」におきましては、乳幼児医療費の助成事業、あるいは不妊治療費の助成事業といったところで、事業の拡充を図っているところでございます。

5の「子どもの生きる力を育む教育環境づくり」では、次代の親づくりとして、おおいた出会い応援事業ということで、出会いの場づくりをしたいと思っておりますし、小学校1年生、2年生まで30人学級の編成を実施しております。

6の「仕事も子育てもしやすい環境づくり」では、民間企業協働型子育て支援事業ということで、先ほどちょっと申しました一般事業主の行動計画というものを作っていただくということで、事業化をしております。

こういった諸々の施策を展開しているところでございまして、県民会議の皆様には、また引き続きご提言をお願いしたいと思います。

5ページをお願いいたします。

ここでは、主に18年度の少子化対策に係るNPOとの協働事業を説明いたします。大きく2つありまして、1つが、おおいた子育て応援団ということで、「とくとくサービス隊（仮称）」、「おでかけ応援隊（仮称）」、「しごと子育て応援隊（仮称）」という3つがあり、「とくとくサービス隊（仮称）」については、18歳未満の子どもさんがいる家庭を対象に、料金割引などのサービスを行っていただく。「おでかけ応援隊（仮称）」は、多目的トイレや

授乳室など、おでかけにやさしいところを登録する。「しごと子育て応援隊（仮称）」は、自社の従業員の仕事と子育ての両立を応援していただくと、こういったところを募集しようということでございます。この事業は、九州5県で同じようにすることとしており、右の上の方にありますように、シンボルマークを九州5県で共通して使うということになっております。

2の「おおいた出会い応援事業」ということでございますけれども、見合いの結婚が減少している、出会いの場が少ないということを受けまして、出会いイベントを開催する企業を募集して、少しでも結婚に結び付けていきたいなというふうに考えております。

次に、国の方の「新しい少子化対策について」ということで若干説明をさせていただきます。

6月20日に、総理大臣をキャップといたします「少子化社会対策会議」が開催され、そこで決定されたものが昨日ホームページに掲載されましたので、急遽資料に追加し、ここで紹介をさせていただきます。

まず前文で、「急速な人口減少は、経済産業や社会保障の問題にとどまらず、国や社会の存立基盤に関わる問題と認識すべきである。」と位置づけ、「1、新たな少子化対策の視点」ということで、「出生率の低下傾向の反転に向け、少子化の背景にある社会意識を問い直し、家族の重要性の再認識を促し、また、若い世代の不安感の原因に総合的に対応するため、少子化対策の抜本的な拡充強化、転換を図っていかなければならない。」と述べています。

2ページをお願いいたします。

(1)の「社会全体の意識改革」については、要は、家族の絆や地域の絆を強化することだということで、子どもを家族が育み、家族を地域社会が支える、そのような社会であってこそ各種支援施策が効果を発揮するのであり、国、地方公共団体、企業、地域社会等が連携の下で、社会全体の意識改革に取り組むことが重要であるとしています。

また、(2)の「子どもと家族を大切にするという視点に立った施策の拡充」については、経済的な負担感の大きさ、家庭と仕事の両立の困難さ、育児についての不安などの子どもを生み育てることをためらわせる経済的、あるいは心理的な負担感を軽減し、子どもを安心して生み育てやすくする環境整備のための支援策を更に進める必要があり、職場の働き方を是正し仕事と生活の調和を図る必要もあると謳っております。

子育て家庭は、子どもの成長に応じて様々なニーズを有しており、先ほど少子化のフローの図でご覧いただいたように、年齢に応じていろんな対策が必要です。少子化対策の考え方としては、

- [1]総論として、子育て家庭を社会全体で支援するという事。
- [2]働いている、働いていないに関わらず、すべての子育て家庭を支援するという視点から、在宅育児や放課後対策も含めて地域の子育て支援を充実することが重要であること。
- [3]仕事と子育ての両立支援の推進や、男性を含めた働き方の見直しを図ること。
- [4]特に親の経済力が低く課題が多い出産前や乳幼児期において、経済的負担感の軽減を含め、総合的な対策を講じること。
- [5]就学期の子どもの安全の確保、出産、子育て期の医療ニーズへの対応、あるいは特別な支援を要する子ども及びその家族への支援の拡充。

以上の5点を挙げています。

これらの視点を踏まえて新たな少子化対策を推進することとし、各施策については、歳入歳出一体改革の中で、必要な財源の確保と併せて、平成19年度予算編成過程において検討するものとし、税制面においても、少子化対策を推進する観点からの必要な措置を検討するものとするということです。以下40項目について掲げておりますけれども、これは、今後、国の方でまた制度化について検討がなされるという状況でございます。

以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。それでは、質疑・応答に入ります前に、国のこの会議に参加された方がここにいらっしゃいます。藤本委員さんからも、国の様子等をご説明していただけるとありがたいんですが。

【藤本委員】 それじゃ座ったままで説明させていただきます。

今、ここにお手元に配られておりますこの「新しい少子化対策について」は、私が構成員として参加している少子化社会対策推進会議の提言を受けて、政府が出したもので、これを詳細に見ていただければと思います。

この会議の前には、私を含む8名の有識者委員による小委員会が開催されており、そこでの共通認識としては、今までどうしても保育に偏りがちな支援を、親の就労、つまり母親が働いて、いないにかかわらず、すべての家庭に向けようということが非常に大きな基本的な考えになっておりました。あとは、具体的にはいろんな立場の意見が出まして、ここに記されているとおりであります。

そして、子どもが生まれる前から、生まれて育っていく過程のどの過程においてもそれに必要な支援があるだろう、それぞれのステージに応じた具体的な支援策を取っていくべきであろうということが第2点ですね。

第3点目は、新たに特別な案が出てくることはないだろうと。今まで示された、エンゼルプランから始まりまして、10年以上もいろんな施策がなされてきた。それはいずれもすばらしい施策であるんですけど、それをいかに有効に使うかということ、それから、どこに重点を置くかというようなことが議論の中心になりました。最終的には、6月15日の少子化社会対策推進会議という会議の中で、政府に対して提言をし、その後には作られたものが、この20日の今皆さんの手元にあるものになっております。

途中でニュース等で取り上げられまして、かなりの誤解があったわけなのですが、確かに委員の中には、経済的支援をあまり優先すべきでないという考え方の方もおりましたけど、私ともう1人の委員は、むしろ今は、即効的な効果が現れる、しかも国としての姿勢が国民により強く伝わるような、目に見える形での経済的支援を進めるべきだという意見を出しまして、これらのことにおける大臣の取り上げ方に特別問題があったわけじゃないんですけども、ちょっといろんな意味で誤解といいたいまいしょうか、そういうことで、しばらくニュースになったような状況であります。

【会長】 はい、ありがとうございます。

それでは、これから2、3質疑等お受けいたします。ご意見については、後の議題3の意見交換の時間に、そちらの方に回したいと思っておりますので、今説明があったことについての、ちょっと不明な点とか、ここをもうちょっと補ってほしいとかいう点で1、2お受けしたいと思っておりますが、いかがでしょうか。どなたからでもどうぞ。5～6分時間取りますので、どうぞ。

いかがでしょうか。よろしいですか。

(質疑なし)

【会長】 特になければ、先へ進ませていただきます。また気のついたことがありましたら、終わるまでの間にどうぞ自由にご発言をいただきたく思います。

それでは、今度は議題の3の方に移っていきたく思いますけども、議題3は意見交換ですね。

まず最初に、新しく委員になられた方に、自己紹介も含めまして、資料6ページに、「次世代育成支援のキーワード」というのがありますから、これを元にして、あんまり時間がありませんので、お1人2分程度に限らせていただきますが、その2分の中で、新しい委員さんから順番にご発言をお願いしたいと思います。最初、青柳委員さんからお願いしてよろしいでしょうか。どうぞ。

【青柳委員】 皆様こんにちは。青柳と申します。昨年に引き続き、一般公募委員ということで参加させていただいておりますが、立場は、1歳と5歳の男の子のお父さんという立場と、今、まちづくりということを仕事にしているその2つの側面から若干お話しをさせていただきたいと思います。

キーワードに書いてありますのが「子どもたちの笑い声が聞こえる街づくり」ということを書かせていただいております。皆様ちょっとふと思っただきたいんですけども、果たして、今、大分の街の中で、子どもたちの笑い声が聞こえるでしょうか。私が見る限り、昔の町のような笑い声というのが今聞こえないんじゃないかという気がしています。なぜこうなってしまったかということを考えた場合に、1つは、子どもたちが気軽に外に遊びに行けるような街になっていないんじゃないでしょうか。不動産のデベロッパーとして大いに反省するところですが、経済性を重視するあまり、道路と壁に囲まれた家、これだけの街というのを過去たくさんつくってきたわけでございます。こういった街の中で、子どもたちが本当に外に出て遊びたくなるのかといった場合に、非常に大きな疑問が湧きます。子どもが外に出なければ、親も外に出ないわけなんです。親が外に出なければ、街のコミュニケーションがなくなっていくことになります。

ポイントは、人々が集まれるような場所を街の中に新しくつくるといったことじゃないかというふうに考えております。よく井戸端会議という言い方をいたしますけれども、井戸端会議というのは、井戸がなければできないんですね。井戸に集まってくることで、人々が集まってお話をします。そのための井戸のようなみんなのコミュニケーションが取れる場所をつくっていききたい。

実際に、全国を見渡しますと、福島県の伊達町というところに諏訪野団地という団地がございます。これは、養老孟司さんが「無思想の発見」という本の中で、唯一日本で子どもたちが増えている町ということで紹介されておりますけれども、そこを見てみますと、家を1つの広場の周りに建設するんですね。で、真ん中の広場に10軒ぐらいの家の人が集まって、それで子どもたちを共通に見たり、それから交流を深めたりということをやっているところなんです。で、そういった先事例を考えてみますと、工夫次第では、子どもたちが育ちやすいハードの面の整備ということができていくんじゃないかというふうに感じております。

私は、仕事を通じましても、こういった街づくりがこの大分でできやしないかということにトライをしていきたくと考えておりますし、大分なりの子育ての街のあり方ということ、

今後皆さんで考えていけたらよろしいんじゃないかと思います。以上でございます。

【会長】 はい、ありがとうございました。この井戸端会議と言われるように、井戸に象徴される何かが必要ではないかと、大変ユニークな発想ですね。それでは、後藤みか委員さんお願いいたします。

【後藤みか委員】 後藤と申します。青柳さん同様、昨年度もこの会議の席に参加させていただきまして、2年連続公募委員で、そんなにないだろうなと思ったら青柳さんがいてくださって、ほっとしました。

私の方のキーワードとしては、「子どもと話そう」という言葉を挙げさせていただきました。子育てというのは、私も、今、4人の子どもを育てていますが、確かに年齢に沿って、親もいろんな苦労があったり、それから楽しみがあったり、そんな日々が積み重ねられていっています。ただ、子育てというのが、親の責任とか個人の責任に終結させることなく、すべての子どもが安心して暮らせるように、先ほどのプランの中にもあったように、行政や民間、地域などで、支援といわず、ぜひ保障するラインまで、強い意気込みで子育てを社会化して行っていきなあとと思っています。

本来育っていく主役である子どもたちが、今何を考えて、どんな気持ちでいるのかなあということを大人が耳を傾けて聞く、それから親じゃなくても、他のいろんな地域の方が、あいさつだけでもかまわないんですけれども、子どもたちを見守ってるよというメッセージを送ってくれる、そういう大人たちを全部巻き込んで、子どもが安心して育っていけるような状況を積み重ねていく努力をすることが大切かなあとというふうに今、感じています。私も、PTAの方で、安全対策とか、それから子どもたちの放課後の対策とか、いろいろ頭を悩ます会議とかに出ることもあるんですけれども、その中で、参加したお母さんたち、お父さんたちからでるのは「今の子どもは大変だね」という言葉です。でも、今、少ない子どもを大切に育てていけばきっと変わっていくよというように前向きに考えて、小地域からですけれども、子どもの顔が見える、子どもと大人がつながっていける連携策を探しているところです。

私は、仕事上、社会福祉関係の社会福祉士という資格を持ってフリーで活動しておりますけれども、NPOの活動だとか、それから社会教育の活動などをしていっている中で、子どもたちと話してみると、何か自分の子どものときにタイムスリップしたりして、子どもの気持ちっていうのに寄り添うのは、やはり子どもの意見とか、子どもの話を聞くことだなあとというふうに思っています。子育て支援、次世代育成ということで、20年先、今の少ない子どもたちを大切に育てていけば、20年先はきつともっと子育てというものが楽しいよって言えるようになるんじゃないかなあとと思って、ちょっと長い目で取り組んでいくことも必要かなあとというふうに思っています。まとめありませんけど、以上です。

【会長】 はい、ありがとうございました。親だけの責任として追い込んでいかないで、子育てを社会化してはどうかという、新しい視点による提案がされたかと思っています。この後、田中委員さん、それから西村多恵子委員さん、濱田委員さん、吉田委員さんと、お願いしたいと思います。田中委員さんからそれではよろしく申し上げます。

【田中委員】 こんにちは。田中一旭と申します。私はまだ未婚です。私は独身です。これから結婚して子どもを生み育てる世代として、何かこの会議で声を上げることができたらなと思って応募してみました。それと、私自身も、子育て関係のNPO法人の理事をしており

ます。私の法人では、保育園や障害児を受け入れるデイサービス、また子育て支援などを行っています。私自身は子育てはまだしていませんけれども、そんな子育てをしてお母さんたちの生の声をいっぱい聞いてきていますので、そんなお母さんたちの声を少しでも届けられたらなあと思って、今回は応募しました。よろしくお願ひいたします。

今回、私は、「ぶらっと大分」という名前でキーワードを挙げさせていただきました。これは、私自身もこうありたいなと思うんですけども、肩肘張らずに子育てをしてみたいなと。ぶらっと子どもと一緒に出かける場所があって、お母さんもぶらっと遊びに行くときに、子どもをどこかに預ける場所があるという感じです。なので、みんなが子育てをしないといけない、子育ては大変というのじゃなくて、肩肘を張らない子育てができたらいいなと思っています。今度自分たちが実際子育てをする2年後、3年後に、もしそんな環境が大分で整ってたらいいなと思って、このようなテーマを挙げさせていただきました。

先ほどの委員の方が、20年先と言われたんですけども、僕たちはこれから子育てをする世代です。もうちょっと早くいい環境が整うようになればなと思って、ぶらっとというキーワードで提案させていただきました。よろしくお願ひいたします。

【会長】 20年後、田中委員さんがぶらっと大分の街を歩いている姿が見えるのかなと思います。地域の中にぶらっとできるような状態を作っていく、これはハード、ソフト両面からかなというふうに思って聞かせていただきました。それでは、西村多恵子委員さんいかがでしょうか。

【西村多恵子委員】 皆様こんにちは。大分県PTA連合会副会長母親代表の西村多恵子と申します。よろしくお願ひいたします。

昨年度まで部員さんに出てきていただいたので、初めてこの席に出られることをうれしく思っております。キーワードは「生きるうえでの基本、食育から」と書いてますが、私たち県P母親部会は、子どもたちの心身ともに豊かな成長を願って、母親ができることということで、生きるための基本である知育、徳育、体育の基礎となる食育について、県下全域で考え、勉強する機会を増やすこととしています。PTAは、いろいろ考えることがあるんですが、母親という立場から、今年は頑張りたいなと思ってます。よろしくお願ひいたします。

【会長】 食育というポイントをついていただきましたけど、いろんな家庭があることが今、報道でされてますので、また後でご意見をいただければと思います。それでは、濱田委員さんお願ひいたします。

【濱田委員】 皆さんこんにちは。私は野津高校の濱田と申します。野津高校はご存知だと思うんですが、福祉科単科の学校として、福祉従事者の育成を目指していろいろな取り組みをしているところです。そのような立場で、高校生に少子化について何ができるかなということ考えたときに、出産、子育ては、自由な時間がなくなるなど、いろんなマイナスのイメージが先立ってるような気がするんですが、出産や子育てをプラスのイメージで考えられる教育が必要じゃないかなあというふうに思ってるんですね。高校時代に、次代の親になるための意識を醸成し、健康づくりだとか、それから豊かな心の育成という基礎的な部分を担っているのが私の立場での役目かなあというふうに思っております。

そういう中で、高校生ですから、とにかく将来親になるという当事者意識をきちんと持つように、また体験を通して、子どもが非常にかわいいとか、好きだとか、大変なことも含めてですが、古い考え方になるかもしれませんが、本当に子どもは宝のようだとか、

そういうふうな理屈を抜きにした感情を育てたいと思っています。家庭の役割や、命の大切さといった意識を育てることが大変大切だと思っており、それをカリキュラムの中でどのように対応していくのかを考えていかなければと思っています。

また、そのような場に参加をし、体験をしていく中で、高校生の自分も一人の人間として子育てをしながら、子どもと関わりながら成長していくんだという視点も大事にしていかなければいけないと思っております。

本校は、一応福祉科ですから、そういう観点から福祉や家庭科等の授業の中では、保育実習だとか、それから健康教育とか性教育を中心に、保健所との連携を持ちながら、ヤングヘルスセミナーなどを行っております。また保育ボランティアもさせておりますが、これは放課後の活動として、保育所に生徒が行ってボランティア活動をするという取り組みです。これは本校であるからできるんですが、他校の高校生についても、放課後の自由な時間を子どもと関わるような、ボランティアができるような制度ができると、もっと子どもたちが男女含めて、子育てとか子どもに対する意識が高まるのではないかなというふうに思っています。そのためには、やはりそういうボランティアを養成する指導者というのもあるかなという気がしておりますし、それから、本校は、全員がいろんなボランティア活動しますから、全員をボランティア保険にかけておりますけれども、そうでない学校について、やっぱりボランティア保険なんかの対策などもあるかなというふうに思っております。

そういうことを、教科とか学校行事だとか、それから総合的な学習の時間とか、そういう中でどのように位置づけて育てていくかなということを、私の立場としては考えていかなければいけないなというふうに思っているところで、キーワードは、「わくわく子育て親子で成長」というふうなことにさせていただきました。以上です。

【会長】 ありがとうございます。そうですね、子どもを生んで育てるということをプラスのイメージで受け止められるような教育や、それから年長少年によるボランティアについてお話いただきました。私も今振り返ってみると、子どもの頃はよく中学生と一緒に遊んでいました。小さいながら、中学生とか高校生が地域の子どもと一緒に遊ぶということがあれば、もしかしたらお父さんお母さんもっと安心して働けるかもしれませんね。そんなことも今伺いさせていただきました。それでは、新委員さんとしては最後になりますが、吉永委員さんお願いいたします。

【吉永委員】 はじめまして、吉永といいます。私、実は子育てに失敗した親の子どもでして、暴走族というところでそういうことをやってまして、一時期は暴力団の事務所にも出入りするようなことをやってました。ある調査によると、家族と会話がないと答えた人は、よく話すと答えた人に比べて2倍から3倍、そういった確率が高くなるということだったんですが、まさしく私がそれでして、そういったこともあって、「コミュニケーション」をキーワードに上げさせていただきました。

ご存知のとおり、コミュニケーションとは、人と人がつながる基になるものなんですが、そのコミュニケーションの取り方が不完全のために、誤解を招くというような形で、地域のコミュニティが希薄になっているのではないのでしょうか。そして、希薄になっているために、今度は、子どもたちの集団遊びの崩壊とかいうところの悪循環につながってるんじゃないかなあと思っています。

コミュニケーションを促進させるためには、コミュニケーションに必要な能力を身につけ

ることと、積極的にコミュニケーションを持つ姿勢が大切だと思っています。子育て支援ということで、様々な子育て支援の人材を養成するという施策にもありますので、お父さんお母さんとか、先生方など多くの時間を子どもと共有する大人たちが、積極的にこういう能力を身につけてコミュニケーションを交わしていけば、またコミュニティが活発になって、伸び伸びと育つ環境になるのではないかと思います、コミュニケーションということで挙げさせていただきました。以上です。

【会長】 ありがとうございます。吉永委員さんには、本当に貴重な体験を今ここで吐露していただきましたけど、また、その体験に基づいた子育て応援の新しい視点、そういうものを出していただければというふうに思います。ありがとうございます。

それでは、少子化対策等については、今のご発言にもたくさん出てきたんですけど、「地域における子育て支援の充実」このことがキーワードの中から読み取れるかと思います。それから、17年度それから18年度のところで同じということで、同左と書いたのもありますが、それを見ていきますと、「働き方の見直し」についてもいくつか提言がございます。そして併せて「経済的支援」などについてもキーワードとして挙げられた方がいらっしゃるかと思います。様々な課題がまだいくつかあるんですけども、ここからは、今ご発言いただきました新しい委員さんのキーワードも含めて、皆さんで自由なディスカッションをしたいと思います。

今、私の方で3つほど絞ったんですけども、1つ目の「地域における子育て支援」、これが今たくさんの方から出されているし、それから昨年から引き続きの方も、そのキーワードを一番出してくださってるのではないかと思いますので、この点について、意見交換をしたいと思います。どんなご意見でも結構です。ただ、1人5分、6分と話されますと、次の方が話せなくなりますから、2分程度ずつということをお願いしたいと思いますが、もうどんどん手を挙げていただきたいと思います。いかがでしょうか。地域における子育て支援という点で、ご意見、それからこんなことをしたらという提案ありましたら、どなたからでも結構です。

先ほど、西村委員さんというときに、お隣のもう1人の西村慶治委員さんは、もしかしたら私ではないかなと思って期待されたのではないかと思いますけど、西村慶治さんいかがでしょう。

【西村慶治委員】 ただ今ご指名をいただきました西村です。今日は、おとなしく、周りの方に迷惑かけないようにここから話をしたいというふうに思います。

やっぱり大人も成長しないといけないかなと思います。1年経ちますと、子どもたち本当に成長するんですね。心も体も成長しますが、私たち大人の身体の成長は、なかなか縦に伸びないので、横に伸びることになってしまいます。先程、食育の話もありました。私、今41歳です。先日、40過ぎたら半分ぐらいの人がメタボリックシンドロームということで、私たち大人も気をつけないといけません。まさに、私たち大人がまず子どもたちに範を示す必要があるのかなというふうに思っています。

また、今日、新しい委員の方の中で、コミュニケーションというのを挙げていただいた方がいらっしゃるって、私も実はそれを挙げていて、ちょっと事例としてご紹介したいと思いますが、私、今キャリアカウンセラーという仕事で、いろんなところで高校生、大学生と話をしたり、セミナーをしたりしております。その中で、ある就職支援のセミナーで、若者たち

が集まったセミナーなんですけど、今、なかなか、セミナーをしても本人が望んできているわけではなくて、しょうがなく来てるケースがあります。そんな中で、もちろん、私、講師で行ってますから、講師はやる気満々なんですね。やる気満々で、就職支援だから、まず自分の良いところから、長所から振り返っていきましょうと話を振っても、多くの子どもたちが、何も書かなかったりとか、何するの、そんなことするのという顔で見たりします。そのときに、私の方が中に入って行って、ある若者の横に立ったときなんですけれども、私が横に立ったら、その若者が、じろっと私をにらみ上げたんですよ。で、その目はまさに、“あなたの言うことなんか聞くもんか”という感じのにらみなんですね。

そのときに、私とその若者に声を掛けたのは、はっ！と一応驚いてですよ、「すごいな、こんなセミナーで講師をにらみ上げるなんて勇気があるね。長所だよ、書いときよ」と言ったんですよ。そうすると、そこでその若者がプッと笑ってくれて、そこから雰囲気は和みまして、2時間ぐらいのセミナーでしたが、終わったあとには、多くの若者たちが「ありがとうございました」と、明るい声を残して去って行ってくれました。

で、今日のコミュニケーションという話なんですけれども、コミュニケーションは、多分メッセージのキャッチボールだと思うんですね。私たち子どもの頃、例えばキャッチボールを覚え始めるころは、まともなボールは投げられない、悪玉を子どもたちは投げるんですが、親や兄弟が、悪玉を投げられても、それをなんとか拾ってあげてまた返してあげる。何度も何度もキャッチボールをしている間に、きれいなボールが投げられるようになる。実は、このキャッチボールする機会が、地域や家族で少なくなっています。少子化で家族も小さくなり、あるいは親も大変で共働きをしている。地域に出て行っても、地域の商店街とかほとんどなくなっています。つまり人と出会う機会、キャッチボールをする機会がほとんどないんですね。そんな中で、実は若者たちは、このキャッチボールをする機会がなくてコミュニケーションが少し苦手になっているのかな。だから、もしかしたら、昔よりは少し辛抱して、多少悪玉を投げてきて、それを受け取ってあげて、返してあげる。これをしているとだんだんとできるようになるのです。それをする前に、最近の若者たちは、何か敬語が使えないとかいう話をしたりしますが、いやいやチャンスがなかっただけですよ。必ず能力はある、そんなふうに思っております。以上です。

【会長】 面白い例ですね。はい、ありがとうございます。

先ほどの吉永委員さんですね、コミュニケーションというのを今、西村委員さんの方でキャッチボールにたとえられたんですけど、何かお聞きになってご意見ございませんか。

【吉永委員】 いや、まったくそのとおりだと思います。

【会長】 そうすると、あんまりよくないボール投げて、とにかく受け止めるという人がいれば、何度も子どもたちは投げて、だんだんと良いボールを、つまり良い会話、あるいは良いお互いの心のやり取りができるようになっていくんじゃないかと。

【吉永委員】 そうですね、1人でもボールを受けてくれる人がいれば、絶対変わります。

【会長】 ああ、なるほどね。これはもしかしたら、子育て中のお母さん方もそうなのかもしれないですね。自分の子育てについて、ボールを投げたら、たとえ下手であっても、そこんどこをちゃんとフォローしてくださる方がいらっしゃればということかもしれないですね。

【吉永委員】 そうです。

【会長】 はい、ありがとうございました。安倍委員さんいかがでしょう。そういう意味で

は、助産師というそういうお仕事をなさってる上で。

【安倍委員】 そうですね、今、私、各市町村に出かけまして、乳児を持つお母さんたちを対象に、親子のコミュニケーションの取り方ということでやってるんですけど、親子のコミュニケーションがまずできないお母さんが大変多いですね。赤ちゃんが折角声を出してお母さんにメッセージを送ってるのに、それに対してお母さんがなかなか返してあげられない。だから、「赤ちゃんが何かお話してますよ、ほらお母さん何か言ってあげたら」って言うけど、恥ずかしい、何か独り言を言ってるみたいでという感じなんです。

ですから、コミュニケーションというのは、もうおなかの中にいるときからね、親子のコミュニケーションをしていかないといけないんだということから話をさせていただいて、そして、実際にコミュニケーションをするにはどういう方法があるか。手をかける、目をかける、気をかける、これみんなコミュニケーションだよということで、お話をしたり、実際に触ったりして、お母さんにコミュニケーションの取り方をやってるんですけど、まあそういうふうにやりながら、少しずつお母さんたちの声もだんだんと出てきてる感じがいたしますので、楽しみにしてるところです。

【会長】 田中委員さんいかがでしょう。先ほど、独身でこれからということだったんですが、今の安倍委員さんのお話聞かれました。

【田中委員】 私が思ったのは、もし安倍本子委員が10人、20人いて、県内のいろんなところで毎日そういう話をいろんなお母さんの前で、またこれからお母さんになる人たちの前で、もっと20人、30人いっぱいやってくれば、よりもっと安心して、これから子育てしよう、これからチャレンジしようという人たちにとっても、とても勇気付けられるのではないかなあとは思ったんです。反対に言えば、安倍委員のような方が少ないのではないかなと。また、そんな場がいっぱい、もう1つ2つじゃなくて、市町村に1つじゃなくて、県下に10も20も30もいっぱいあって、ふらっと、ちょっとどうなのかなと思ったときに立ち寄って、そこに、安倍委員がいて、話ができるような場があるといいなあと思います。そうしたらさきほど講演会でじろっとにらんだ高校生のお話がありましたが、彼にも、もしそんないつも話に聞きに行けて、お母さんやおばさんのように親身になって話をいつも聞いてくれる方が自分たちの住んでる近くにいる場所がいっぱいあればいいなあと思いました。

【会長】 ありがとうございます。それが現実の要望かもしれませんね。はい。今のことをめぐって、今地域での子育て、あるいは地域の中で子育てをしていくためにということで、藤本委員さんからどうぞ。

【藤本委員】 先ほど時間いただいたときに言っとけばよかったと思うんですけど、今、国では大きな柱3本あるわけですね。1つは、地域の子育て、それから働き方の見直し、それから経済的支援、この経済的支援というのは、これはもう財政的な問題が関わりますので、我々がここで議論してもしょうがないことだと思いますし、それから働き方の見直しというのも、これは企業とか、いろんな法的な問題が関わりますので、ここでは言いません。

確かに、今ありますように、地域の子育てということが我々がすぐ取り組める方法だと思うんです。で、今手を挙げたのは、実は、「ペリネイタル・ビジット」というのを、私どもずっとやっておりまして、この席でも何度もお話ししましたが、これは、健康である方々に、健康な親子関係、健康な子育てを始めることができるようにということで、産科と小児科、

それから、もし何か問題が見つければ、保健師（行政）が関わって支援・問題解決をする。これが全県下できちっと行えるようになればうまくいくだろうと思うんです。

【会長】 そういうシステムは、今もう作りつつあるわけですね。

【藤本委員】 もうできています。実際にやってるのは、大分市と別府市とそれから杵築市、それから今度臼杵市が入ったんですかね、取り組んでるわけです。全18市町村が取り組んでくれば、今言いましたように、県下どこでも幅広くできるようになると思いますし、この中で大事なことは、いろんな子育ての地域における支援システムがなかなか知られてない。これをきちっとわかるように調べて、利用できるようなことをすることが、まずすべきことじゃないかなというふうに思っております。

【会長】 なるほど。お医者さんはもちろんのことながら、助産師さん、それから看護師さん、保健師さん、それから社会福祉士さん、それからカウンセラーの方も、いっぱい今はいらっしゃって、専門的な立場でいろんな指導ができる状態にあるんだけど、その方たちを活用することを知らない方もいっぱいいるということなんですね。

この点から、どなたかどうでしょう。ご意見とか、こうしたらいんじゃないかとかいうことで、どんな些細なことでも結構ですが、ご意見いかがでしょうか。どうでしょう。安東委員さん、何かございませんか。

【安東委員】 私は保育園関係で、子育て支援としてゼロ歳児保育、そして延長保育、一時預かり保育と、もう様々な機関で頑張っております。いろいろな工夫はしてるんですけども、なかなか少子化が止まらないということで、私たちの地域では、やはり、まず子どもを生んで育てるという環境づくりということで、まず小さなことから始めようと思ひまして、地域の民生委員の方、老人会の方、そして公民館の方と、小中学校の保護者の方と、いろいろな連携をとり子育て集会というのを行いました。未婚の、高校生と中学生、そして短大生の方も呼びまして、いろんな話をしたところ、短大生からここの地域で子育てをするととても安心だという言葉が出まして、こういう小さなことから始めれば、本当に子どもを育てていくという環境づくりにつながると思いました。

先日テレビを見ていましたら、今、臼杵で「22歳の別れ」という映画を撮っている大林監督の話がありました。この臼杵という地域はとてもすばらしいところだと。16歳の男の子が、本当は県外に出て就職していきたくて思っていたけれども、大林監督のその映画を見ることで、この臼杵という地域をもう一度見直すことができた。そして臼杵に残って父親の跡を継ぎたいと思った。そんな大林監督のメッセージを聞いて、私たちもこの地域のすばらしさをもっと皆さんに伝えて、この大分県で生み育てたいという思いを若い方に持ってもらいたいと願ってます。

【会長】 なるほどね、大分の良いところをもっと若い世代にどんどん発信していくということも含まれているんですね。

それから、同じ小さい子どもさんを預かっているところでは、幼稚園、それから小学校がございしますが、順番に、牧野委員さん、それから安部委員さん、お願いしてよろしいでしょうか。牧野委員さんの方から。はい、どうぞ。

【牧野委員】 昨年、初めてこの会議に出していただいて、私もとても考えることがたくさんありました。そして、子育ての大事さ、それから預かっている中での教育の大切さ等をお話するととてもよい機会に参加させていただいたと思っております。私が参加させていただき

ましたので、各園の先生、園長先生方にもその思いを伝えたいと思ひまして、いろいろ今お話をしているところです。

子育て支援についてお話しさせていただきますと、私立幼稚園というのは、やはりある程度地域の中で限度がある部分もありますが、各園でたぶんみんなどこもやってると思ひますけども、自分の幼稚園に来ている子どもだけではなくて、地域のまだ小さいお子さんが幼稚園に来て遊ぶ場を設けようということによってやっております。2歳、3歳までの小さいお子さんが来ますので、子どもさんといろいろ遊んでもらいたいと思ひて、いろんな環境づくり、場づくりをするんですけども、お母さんがお子さんと遊ぶのではなくて、どうしてもお母さん同士で話すことが主になっています。そういうところを、お母さんが、子どもと見つめ合ひて、そして自分の子どもさんもみて、それから他のお子さんもみたり、それから他のお母さんの子どもとの関わりをみていく機会に、更にしていけないといけないなと思ひました。

先ほど、とてもいいお話を私もお聞きしましたので、一方通行にならないようにお母さん方に少しでもそういうことを伝えて、その気になっていただくよう、また私を含めてよく相談をしていきたいと思ひています。

地域にとって、幼稚園はやっぱり安全面ではとてもいいと思ひますよ。砂場もありますし、いろんなことが安心して遊べる場ですので、地域にたくさん開放していくにはどうしたらいいかということ、いろんな安全面を含めて考えていかなければいけないなと思ひております。いろいろ本当いいお話を今年も聞かせていただいてありがとうございます。

【会長】 はい、よろしくお願ひいたします。それでは、小学校の校長先生していらっしやる阿部先生ですね、阿部委員さんいかがでしょうか。

【阿部委員】 昨年に引き続き2年目です。冒頭、広瀬知事さんにはお礼を申し上げたいことがあります。小学校の1、2年生30人学級を、昨年私の方で提言シートでお願ひしたんですが、もう全国に先駆けて実施していただいて、現場としては大変ありがたいということでお礼を申し上げたいと思ひています。

2番目は、先ほどから言われてます、地域の教育力の話です。私は、たまたま野津原という田舎に勤務しております。私が勤務している地域は、本当に地域としての教育力がまだまだ残っているところです。学校に対して支援を様々な形でしてくれます。私どもが積極的に地域のゲストをお呼びしていますが、例えば運動会の場で、チキリンばやしを前もって児童に教えていただくゲスト、あるいは読み聞かせのゲスト、それから地域の自治委員さんには苗づくりを教えていただいています。皆さんご存知ないかと思ひますけれど、今、苗箱を買えば900円するんですね。ところが、苗箱から作るとまだまだ安い値段ですみます。そういつたことで、学校園にもち米を作って、それを収穫祭で皆さんに振舞うという活動等をしているんです。1反部以上の田を、19人の子どもで1時間ぐらいかかって植えるんですが、保護者はもとより、地域の方も自主的に出て支援してくださいました。それから、運動会の前に運動場の整備をするのに、もう子どもが少ないもんですから、草が生えて大変です。その草取りのお知らせ文書の下の方に「もしもお手すきでお手伝いできたら」ということをたった一行書いただけなのに、地域のお年寄り、上詰地域というんですけど、その老人会の人があんまり、それこそ子どもの数より多い人たちが来て、朝7時から草取りに参加してくれるというようなこともあり、もういろんな形で支援を受けておりますし、そういつた方と交流することによって、多分、今の小学生が大人になったときに、この地域を愛するだろう

な、郷土愛が育つだろうなということで、私どもは地域のゲストを積極的に呼んでおります。そういったことで、誇りにできる地域に住んで、誇りにできる教育を私は今、しているつもりです。

大分市などは、まだ40人に近い子どもたちを3年生以上のクラスではまだ持っているわけで、行き届いた教育をするためには、欧米並みに20人から25人ぐらいの少ない数で、目の届いた教育がまだまだこの先もできるといいのかな、少子化にあわせてそういったことも考えていただきたいなと思います。

最後になります。食育のお話をどなたかされておりましたけれども、今朝のテレビで、朝からご飯を食べてこないという子どもがもう1割、2割というふうが増えてきているそうです。その学校では、朝の給食を取り組んでいるというニュースが、たまたま私、出がけに見ました。そういうことがありまして、食育の大事さを学校現場としても大変重要視しているところです。大きな課題として受け止めているところです。長くなりました。失礼します。

【会長】 はい、ありがとうございました。野津原地域などでは、地域の伝統文化として、そういうみんなで子育てという、そういうのがある程度残ってるんですね。それを今度は、なくなっちゃった地域にもう1回復活していく、あるいは新しい形で、先ほど青柳委員さんおっしゃったような新しい形でつくっていくと、そういうことも今問われているかと思えます。どうぞ安倍委員さん何か。

【安倍委員】 すいません。地域の組織づくりということでお願いしたいことがあるんですけど、私、民生委員もやっております。それで、私どもの地域で子育てサロンを立ち上げて、そして、民生委員とそれからお母さんたちの代表と一緒に、そのサロンを運営してるわけですけど、リーダーさんがなかなか育たない。そのために、最初に立ち上げたリーダーさんが、子どもがもう成長してしまって、そのサロンにはいないんですけれども、次のリーダーが育たないもんですから、ずっと延々とその方がしてくださってるんですね。ぜひ行政の方で、そういうふうな子育てサロンのリーダー養成のようなものをちょっとしていただくと、いいんじゃないかなということを思っておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

【会長】 今しっかりとメモをされておりますので、たぶん記録に残るのではないだろうかというふうに思います。

それでは、この会場には福祉関係の方も何人かいらっしゃるんですね。池邊委員さん、太田委員さん、そして三宅委員さんの順番に、一言ずつ。はいどうぞ、じゃ三宅委員さんからいきましょうか。お手が挙がりまして、どうぞ。

【三宅委員】 さっきからずっと手を挙げてて見てくださらないかなあとと思ってたんですが、今、子育てサロンのことが出ました。私も安倍本子委員の、おなかの中から、手をかけ、目をかけ、声をかけというのは、ああ、いいなって思っています。安倍委員がもっとたくさんいてほしいという声もありましたが、実はクローンはできるなと思っています。研修会の講師に来ていただいてお話を聞かせていただくと、大分県下に安倍本子委員がたくさん増えるなというふうに思ったんです。それと子育てサロンのお話も今出ましたが、実は、昨日もちょっと見学に行ったんですが、子育てサロンを、民生委員で大分県下にどんどん増やそうと、1つの小学校区に1つぐらいはほしいということで、ずっと声をかけてきて、たくさん増やしてきました。どんどん増えてきたんですけれども、まさにその、リーダーが育たないという悩みがあります。それで、本当にいいリーダーだなという方は、やはり保育園とか幼稚園

の先生をしてましたというような方で堂々と子どもさん40人、50人の前で手遊び歌もできるんですね。でも、私のところも子育てサロンをしてるんですけども、先発のサロンの方から、絶対にそういうリーダーの方は育つから、頑張ってるやったら1年、2年で必ず出てくるからって励まされてスタートしたんですけども、やはり子育ての方は何年かで卒業して、幼稚園とか小学校に行ってしまうので、やっぱりリーダーが育たないというのは本当に悩みです。

やはり、慣れていないとみんなの前で立ってマイクを持って手遊び歌をするのは、本当に勇気のいることで、われながら下手だなあと思いながら今私はやってるんですけども、こういう子育てサロンの指導者の研修を充実していただきたいと思っています。今、大分市ですと年に1回研修があります。そのときのおもちやづくりとか、手遊び歌とかは本当に参考になるんですが、そういうものをもうちよっと充実させていただければ、もっとたくさん県下に子育てサロンのような地域でお母さんが寄って遊べるというようなところができると思います。リーダーの充実しているサロンでは、子どもが3人、4人もいるという人たくさんいるんですよとか、多い方は11人目なんですとかいうのも聞いて、やはり子育てが楽しくなれば、少子化も改善されるのではないかというふうに、実に度々思うものですから、リーダーを養成するという事は大事なことではないかと思っています。お願いいたします。

【会長】 福祉の方の一つの大事な発想かなというふうに思います。そういうリーダーの方がそれぞれのところで、小さい地域の中でどんどんとサロンを作っていくと、身近に居場所がある、それから行き場所がある、休み場所があるという形になるかなというふうに思って、聞かせていただきました。それじゃ池邊委員さんどうぞ。

【池邊委員】 県社協の池邊でございます。昨年、私、意気込んで皆さんに私どもの取り組みを紹介させていただきましたので、覚えておられると思いますが、「支えあうまちづくり」というものを、市町村社協とあらゆる機関、団体の方々のご協力をいただきながら、小地域でお互いの支援といいますか、支援を必要とする方々を、地域の人に関心を持って見守って、そして支えあっていくと、そういう小地域の福祉コミュニティをつくっていききたいということを紹介させていただきました。まだ、今、これといった成果が上がっておりませんので報告ができませんけれども、今、着々とその準備を進めているところでございます。

ほど、藤本委員さんからもお話がありましたように、いろいろな施策がありましても、必要なサービスなりそういう情報が、必要な人に必要なときにその提供できてるのかという問題があるかと思っています。だから、小地域でそういうネットワークをつくり、そして県段階でここにお集まりの皆様方にもご協力いただくようなことになるかと思っていますけれども、連絡会議を近々立ち上げたいというふうに準備を進めております。そういうことで、県段階のそういう連絡会議の中でいろんな情報交換しあいながら、それぞれの地域に下ろしていただく。そして、専門的な知識が必要な場合には、そういう方々にもその地域の応援団になっていただくと、そういうような仕組みで今取り組んでおりますので、また、ご協力をお願いしたいというふうに思っています。

【会長】 ありがとうございます。そして、政策は1年後すぐ出るとは限らないけど、5年後、10年後を目指して、いい成果を出していただければというふうに思います。それでは福祉関係でもう一方、太田委員さんお願いできればと思いますが。

【太田委員】 大分県の児童養護施設の協議会の方から代表で出させていただきます。去

年もこの場に出ささせていただいて、児童養護施設とはどういうところなのかという説明をさせていただいたんですが、事情があって、保護者から別れてる、離れて暮らしてる子どもさんたちをお預かりしている施設です。事情も様々でありますので、それこそ、先ほどの心のキャッチボールのお話がありましたけど、一番それを大事にしている子どもたちであります。その中で、職員もキャッチボールをしたいけれど、どうボールを投げていいかわからない子どもたち、それと、投げて強すぎて受け止められずに、まずは転がしてあげることから始めないといけない子どもたち、また、ボールをどう受け取ってどう投げていいのかわからないという子たちがほとんどです。でも、ここで生活してる子どもたちは明るくて、外から見て思うほど暗いイメージはないんですね。ただ、子どもたちを支えなければいけない保護者、子どもたちの受け皿である保護者を支えていく必要があるということがよく言われていますが、今の現状では、私たちスタッフは、預かってる子どもたちとのかかわりを持っていくことが精一杯で、なかなかそこまでも受け皿を整えるということができません。

私たちは、親御さんから預かった子どもたちを早く家庭に戻せるように心がけて子どもたちに接していますが、送り出した子どもたちをまた受け取る親御さんたちのケアがなかなか私たちでは追いつきません。児童相談所との連携もとっていくことも大事ですし、制度のなかで改善はされてきていると思うんですが、それを要望したいということがあります。

児童養護施設は、県下に10施設ありますが、積極的に地域とのかかわりを持つてる施設もありますし、施設のまだ歴史が浅いということで、これから地域の方との接点を持つていこうとしているところもあります。なかなか難しいところなんですけれど、今試行錯誤しながら、施設の方でも考えているという状態です。

【会長】 はい、ありがとうございました。養護施設の方々が児童養護ということで、本当に踏ん張っておられるのを私も目にし、耳にするんですけど、一方で、その子どもたちが立ち直って帰っていくときの家族養護、家族支援、そこが今、まだ不足ではないかというご意見だったかと思えます。

地域における子育て支援について、たくさんの意見をお聞かせいただきました。まだご意見はたくさんあるかと思えますが、ここでちょっと中締めさせていただければと思います。副会長の大嶋委員さんから、「子どもは授かりもの」というキーワードをいただいているんですけども、大嶋さん、これまでのご意見をお聞きしながら、ちょっと一言お願いしたいと思えます。

【大嶋委員】 大嶋でございます。別府大学の教員をしております、これから親になる学生たちに関わる時に、本当に、子どもは授かりものですよというメッセージを伝えたいと思っています。

「彼氏は欲しいけれど結婚はまあいいかな」とか、「子どもはいいかな」とか、軽い調子で言う人もいるんですけど、結構深刻に、「もう結婚はしたくない」と言うような人もいます。

私自身は、結婚はしてるんですけど、子どもは授からなかったという、そういうことはありますけれども、なんとなく結婚すれば子どもができると思ったり、あるいは結婚しなくてセックスしてできちゃったらまあ4カ月前ならなんとかなるという、何かそんな風潮の世の中というのは、ちょっとやっぱりおかしいのではないかと。個人の主体性で子どもをつくる、それは本当にそうだと思うんですけども、一方で、子どもは授かりものであるということ、

また、子宝ということをごんたかおっしゃいましたけれど、全然古くないと思うんですね。

子宝を育んでいくことは、親の責任というのがまた盛んに言われてますけど、親の責任だけではないですよ。やっぱり子は授かりもので、親はなくても子は育つという昔のことわざがあるように、社会が育てなければいけないと、私自身の考えはそういう感じです。学生たちにもそんな話をしていますが、去年の県民会議でも話したかと思うのですが、在学中に母親になり卒業していった学生がいます。父親も学生なんですけれど、保育園に支えてもらったり、ほかの同級生たちもノートをとったりして応援してくれる、もう本当にたくましく感じましたし、何かとてもうれしく思うようなケースもありました。

先ほど、養護施設の方で、親を支えるシステムということを行いましたけれど、親は、やっぱり子どもと一緒に育たなきゃいけないし、どっちかという、親の方が子どもが育つ後追いをしているというような気もするんです。後追いで、追いつかなかった親は、親が悪いとかじゃなくて、何かそこらへんのところもみんな考えていかなきゃいけないかなと、そんなふうに思っております。以上です。

【会長】 子どもと一緒に親も育っていかなきゃいけない、そして、それはおそらく地域の大人もまた成長していかなければいけないということを、暗に込めているかなというふうに思って聞かせていただきました。

それでは時間がだいぶ迫ってきました。後で、知事さんのコメントもいただきたいと思っています。それで、あと6～7分の時間の中なんですけど、もう1つ、働き方の見直しとか経済的支援も含めて、実は、今日はここに産業界、労働界、あるいは経済界の方もお出でいただいています。それから、マスコミの方もお出でいただいていますので、お一人ほんの1分程度ずつになるんですけど、一言ずつご意見いただければありがたいと思います。生島委員さんからお願いしてよろしいでしょうか。

【生島委員】 生島でございます。商工会連合会と名簿上ではなっていますが、私、この中の青年部の方で活動しております。県内で、大分県ですと約900、1,000人切るぐらいの組織です。ありがたいことに、地域に根ざした商売人の組織ですので、結構、子どもたちを見る機会というのが多くて、そういった中で、皆さんとちょっと環境は違うかもしれませんが、やはり、子どもたちに関わるいろんな事件がある世の中で、今からどうしたらいいのかということを考えています。男ばかりの社会ですので、直接子育て等がなかなかできない組織ですから、安全面から、子どもを守る環境づくりということで、全国的にも青年部で「子どもを守るんジャー」という組織を作り、バッチとか、子どもに声を掛けやすいような雰囲気を作って、見守っていこうという組織を今立ち上げております。

【会長】 ぜひそこをまた進めていただきたいと思います。同じ青年の代表で、白根さん、青少年団体の連絡協議会からお出でなのですが、いかがでしょう。

【白根委員】 私も、1年前からこの会議に出させてもらってるんですけど、先ほど子育てサロンのリーダーの問題を言われていましたが、私たちの団体もそうなんです。やはりリーダーの役員さんというか、団体の後継者不足というのが本当に大変になってきていると思います。子育てグループも、いろいろな団体も、その活動自体がなかなかできない環境にあるというところで、本当うまくできたらいいのかなと思います。

また、私自身、1人子どもがいて、11月にもう1人子どもが生まれる予定なんですけど、私自身の両親や妻の両親も、ものすごく生まれてきた子どもをかわいがってくれるんですよ。

ね。地域が支えあうというのもそうなんです、すごく協力してくれるので、もっともっと親や周りに頼ればいいじゃないかと思うんですよね。これもコミュニケーションの問題だと思いますが、うまく進めていけば、うまく回っていくんじゃないか。まずはやっぱり自分の近い、自分の子どもをみるのだから、自分の親にもっともっと頼っていくというのも、ひとつ手じゃないかなあと思います。

【会長】 昔は、親子で確かにそれはありましたね。それから親類縁者もそうですし、隣近所もそうだったのかと思うんですけども、そういうお互いもう少し頼りあい、あるいは支えあいということかもしれませんけど、それをしているのではないかというご意見だったと思います。それではこのあと、佐藤委員さん、仙波委員さんお願いできますでしょうか。はい、どうぞ。

【佐藤委員】 私、子どもが3人おります。子育て時期は共稼ぎで、所得もかなり低かったと思いますけども、よく生み育てられたなあ。考えてみますと、やはり雇用の確保があったと、それから所得の増加の見通しがあったということが一番大きいんじゃないかなと思います。今の若者については、やはり臨時雇用、それから契約社員で、いつクビになるかわからない。これと、所得の見通しも立たないということで、最低限、雇用したら簡単にはクビにしないという仕組み作りが必要ではないかと思います。以上でございます。

【会長】 ありがとうございます。若い人たちには力強いメッセージかと思います。また逆に、簡単に辞めてしまわない、ちゃんと辛抱強くやると、それも必要なのかもしれませんね。ありがとうございます。仙波委員さんいかがでしょう。

【仙波委員】 私どもの団体で、子育て支援というのは、企業の方に育児休業等を取得する、しやすい職場を、といろいろお願いしていますが、お父さんの育児休業というのがまだほとんど例がありません。大分県も他の県でもそうなんです、子育て応援ということから、大分県が男性の育児休業取得の先進県になればなあと思っております。ぜひともそうなるように指導もしていきたいと思いますが、よろしく願いいたします。

【会長】 はい、ありがとうございます。そしたらここにいらっしゃる方から、まずは隼より始めよ、育児休暇を男性も取っていきましょうと。青柳さんは取られましたか。

【青柳委員】 はい。

【会長】 じゃ田中さん、そういう先輩がおられますので、どうぞよろしく願いいたします。

そして、こういう会議をしたあとに、この私たちの意見やアイデア、それから知事さんのお考えを、多くの県民と共有していく必要がありますね。そのためにも、また報道機関等にもご協力いただくことがあるかと思えます。それから報道機関は報道機関としてのまたご意見もお持ちかと思えますので、今日、4名の方がお出でになっているので、TOM Gさん、それから山本委員さん、それから佐伯委員さん、最後に藤川委員さんをお願いしたいと思うんですが、今の順番でお願いしてよろしいでしょうか。それじゃTOM G委員さんから。

【TOM G委員】 ワールドカップ観戦で少々寝不足気味ですが、本当に今回もたくさんのご意見、そして支援策などを拝聴しまして感銘を受けております。今おっしゃったように、情報を知らしめるという使命がありますメディアに携わってる者としては、気合を入れ直すいい機会だと思います。特に、エフエムという電波なんですけど、比較的若い層に訴えることができるというひとつの特性を持っていますので、話していきたいと思えますし、僕は3

0代で、子どもが3人いるんですけれども、現役バリバリの同じ世代の親に、同じ目線で語りかけることができればと思います。

そして、やっぱりラジオというのは、さあ観ようとか、さあ聴こうとかいう感じではなく、思わず車に乗って聞いてしまったとか、すんなりこう入ってくところがあると思いますので、何か情報を発信することによっていろんなことを考えるきっかけになればいいなと思っております。

【会長】 ありがとうございます。そうですね、それでは、今度は合同新聞社の山本委員さんですね、お願いします。

【山本委員】 6月20日、国から出た「新しい少子化対策について」の中で、働き方の改善というものが大きく前に出てきたのはうれしいなと思います。去年、今年も続いてですけども、「経済就労環境の充実」というのを僕はキーワードとしてあげさせていただいてますが、実際にこれがぜひ進んでいくとうれしいなと思います。以上です。

【会長】 ぜひこれが進むといいですね。ありがとうございます。そしてNHKの佐伯委員さんよろしくをお願いします。

【佐伯委員】 NHKでは、昨年度末に、前課長さんに出演していただいて、少子化の話も放送させていただいたのですが、私個人の意見としては、会議の冒頭で藤本委員さんがおっしゃった、県の方がわかる姿勢を打ち出すというのが大事だと思うんですよ。今回のこの事業、206の事業があるのですけれども、何かいろんな事業がたくさんあって、確かに子育て支援というのはもう大変なんですけども、もっと絞り込んでやっていった方がいいんじゃないかと思うんですよね。例えば、過疎地域の下水道整備もこの関連事業の中に入ってるのですけれども、つい職業柄、何でこれが入ってるのかなと疑問に思ってしまうんです。もっと国が出してるような具体的な子育ての支援策に基づいて、重点的にやった方がいいと私は思います。医療費の就学児前の医療費の補助も、無料という話もありましたけども、一部義務化といいますかね、負担が増えるという部分もありますので、そのへんはもっと打ち出して、もう全部無料にしてしまうぐらいの勢いといいますか、重点的な予算の配分、予算が厳しい中でそれは大変だとは思いますが、それをやった方が、県の方としては、県民に対して大きくPRできるんじゃないかと思います。この間のニュースも、未就学児の医療費補助もNHKでお伝えしましたが、結局これは得なのか、得じゃないのかという、それぞれ個人によってケースバイケースで違うと思うんですが、これだけもう県の方が子育て支援をお金の面でやりますよと、ドーンと出して、放送や新聞でPRすれば、何か気分的に、あ、そういうふうに変えてんだなというふうになると思うんです。国も出したんですから、それと同じような形でやっていただければと思います。

【会長】 焦点を絞って変化が見えるようにということですかね。はい、ありがとうございます。それでは、最後になりますけど、藤川委員さんお願いいたします。

【藤川委員】 今日、皆様方のお話をお伺いしてまして、本当、私が勤める職場の方でできること、会社でできることってたくさんあるんだなというふうに思いました。いろんな情報がより多くの皆さんに届くという、そういう場にいますので、お役に立てるときには頑張りたいなというふうに思います。

また、会の中で出た、例えば子育てのリーダー研修会については、昨年度までうちで行っていた子育て番組（「子育てひろば」）がありまして、そこで県の子育てリーダー研修会と

いうのを取材し、放送をしたりもしているんですが、まだまだそういう機会が少ないのかなあというふうにも思っております。

で、地域における子育て支援とか、いろんなお話も出てまいりましたけれども、学びたい、何かをしたいという高齢者の方もたくさんいますし、そういういろんな皆さんの力を借りながら、私自身も3人子どもを育ててまいりました。子育てというのは、多くの方の力を借り、手を借りてやっていくものなんだということ、もっともっと多くの皆さんに知っていただいた方がいいのかなあというふうにも思っております。地域にはすばらしい方がたくさんいます。もう今日いらしてる皆さんが、それぞれの場で、何かより多くの皆さんに発言する場を設けていけば、それだけでもすごい力になるかなあというふうに思っております。

それから、先ほどNHKの方もおっしゃいました、藤本先生の弁ですね、これまでしてきた施策のどこに重点を置くのかと、これは国の方でも考えているということですが、私自身も、県がこんなにたくさんの方の事業をしていることを改めて見てびっくりしました。でも、何かこう、まんべんなくそこそこにやってるのかなあという感じがありますので、できればもっと絞り込んで、どこに厚く手当てを今年度は持つていくのかというところをやっていただいた方がいいのかなと思います。それで、ゆくゆくは、これ夢ですけども、大分に住んでいけば、例えば教育費はかかりませんよというふうになれば、過疎問題も随分解決していくんじゃないかなと思いますが、前向きにいい方向に進んでいったらいいなあと思っております。

【会長】 ありがとうございます。本当にきちんとまとめていただいた形になりました。私も聞いていて、たくさんの方の意見があるなというふうに思いました。私も3人子育てを終わったというか、一番下がもう大学生になりましたので、子育てとしてはそろそろ終わりかなと思うんですけど、大分に来て、大分はそれでも私は子育てしやすかったと思います。気象条件がいいということ、そして、温かい雰囲気が確かにあったんですね。ですから、いろんな方にお世話になりました。こちらから声を上げていくと、たくさんの方が助けてくださったなど、そんなふうにも思っております。

まだまだたくさんの方の意見があるかと思うんですけど、ちょっと時間も迫ってまいりました。それではここで、広瀬知事の方からコメントをいただければというふうに思います。お時間は10分程度でございますので、どうぞ知事さんよろしく願いいたします。

【広瀬県知事】 ありがとうございます。今日が18年度初めての「子ども・子育て応援県民会議」でございました。大変に期待以上のすばらしいご意見をいただきました。昨年度に引き続いて、大変いい、見識の高い委員にお集まりいただいたなど、これから楽しみだなどこう思っています。どうぞよろしく願い申し上げます。

いろいろご意見をいただきまして、私もいろいろ思うことあるんですけども、1つは、なんといいですかね、子どもを生み育てやすい環境をつくると、我々いつも、まず「生み、育て」とこういうことを言ってるんですけど、今日の話の伺い、また私も常々思っていたんですけども、生むことと併せて、育てることということに我々もっと考え方をもっていかなくちゃいかんなどこう思ったところです。というのは、本当になんといひますかね、今さっきもちょっとお話がありましたように、食育について、朝ご飯を食べないで出てくる子どもが1割だ、2割だ。大分県教育委員会のデータでも、2割ぐらい確か満足に朝ごはんを食べてこない子がいるというようなこともありまして、大変なことだと思っておりますけれども、や

やっぱり子どもを大事に育てる、三食食べて、食べさせるというのは当たり前のことだこう思ってるんですけども、それができてないということもあるなど。

それから、コミュニケーションのお話もありますけども、これも大変大事なことだけれども、十分にコミュニケーションができてないということがあるんじゃないかと。これは、我々自身が子ども、今の世代の今の若いお父さん、お母さんになるべき世代の育て方に問題があったのかもしれないし、少なくともこれからそういう子が出ないようにしなければいけない。20年後のことを考えると、朝ごはんも食べないで学校に行った子どもが、子どもはかわいいから子どもを生み育てようかという気にならないと思うんですよね。そういう意味では、やっぱりこの生まれてきた子どもを大事に育てる環境をつくっていくという、あるいはそういう教育をしていくということが非常に大事なんじゃないかと。食育の話やコミュニケーションのお話を聞くにつけ、非常にそういうことを考えました。それがやっぱり長い目でみて、少子化対策の重要な柱になるんじゃないかなという気がいたしました。

それから、もう1つは、これも同じような考え方ですけども、結婚をしてない子、あるいは結婚はしているけれども子どもがいない子に、子育てって楽しいよと、地域全体が支えるからねということを教えて、子どもをゼロから1をつくり出すよりも、1人子どもができた、赤ちゃんができた若いお父さんお母さんに、赤ちゃんてかわいいなど、世の中も支えてくれるしということで、じゃ2人目、3人目つくろうかという、そっちの方が、きっとフィジビリティ（実現可能性）が高いんだらうと思うんです。だから、我々は乏しい資源を投入するなら、むしろそっちの方に投入をした方がいいかなと。もちろん、かわいいよと、早く子ども1人つくったらという方にも大事ですけども、やっぱり政策の効率からいうと、あるいはフィジビリティから言うと、1人できたお子さんを2人、3人に増やしていくところのやり方にもっと目を付けてやると、効果がより大きくなるかなあという感じがいたしました。

それから、子育てサロンのお話がありまして、リーダー養成について、もっと積極的にやったらいいんじゃないかというお話がありました。本当にこれから地域ぐるみで子育てを応援していこうということになりますと、やっぱりいろんな活動を地域のいろんな人に担ってもらえば必要があると、そのためにやっぱりリーダー養成というのは非常に大事だなこう思います。やっているんですけども、なかなか効率的にできてないというところもあります。先ほど幼稚園のあるいは保育園の先生を経験した方は、随分そういうことに長けてるというお話もありましたし、やっぱりそういう狙いをつけてリーダー養成をやっていくというふうな、ちょっと工夫をしながらやっていくことが大事だなというふうに思いましたけれども、お話のあった、やっぱりコミュニティで子育てを応援してもらおうということになれば、そのリーダーの養成というのは力を入れていかなければいかんなこう思ったところです。

それから、4番目に、情報の提供というのが大事だというお話ありました。これはそのとおりだと思います。いろいろやっても、情報として届かないで、自分たちは果たして地域から応援してもらってるんだらうかというようなことを、子育て中のお母さん、お父さんが感じるということでは大変でございますから、やっぱり情報が届くようなネットワークをどうやって作っていくかということが、非常に大事なことだと思いますので、これもホームページを見ればわかるんですよということではやっぱりためだと思えますので、工夫をしなければいけないなこう思います。

それから、最後でございますけども、ジャーナリズムの皆さん方から、ちょっと県の政策がちょこまかしすぎてるんじゃないかというお話がございまして、確かに、今、骨太の方針というのが流行っておりますから、少し合わせてやったらいいかなとこう思ったんですけども、ただ、打ち出し方としては、きっとこんなごちゃごちゃやってないと思いますが、今日のご専門の先生方も多いということで、細かく出したんだろうと思いますが、もう少し骨太に、さっきの、わかりやすく情報を提示するという意味からいっても、あまりごちゃごちゃやってもしようがないかなという感じはいたします。

それから、よく説明をするということが非常に大事だなとこう思いました。骨太の方針にして、しかもよくご説明申し上げることが非常に大事だなと。先ほど、乳幼児医療につきまして、前の政策と比べて得か損かというような話もあるんだというようなお話がありましたけれども、今回の措置は、自己負担が少々ありますけれども、全国レベルできっとトップクラスの措置になってるはずなんです。そういうことをよくPRしなきゃいかんなど、ご説明しなきゃいかんなど。そうしないと、今のNHKさんのお話のようなコメントが出たりすると大変でございまして、十分に説明をしていきたいとこう思っております。せっかく県民の皆さんの税金を使ってやってる応援でございまして、PRはしっかりやっていきたいと思っております。以上でございます。

【会長】 はい、ありがとうございます。佐伯さん、よろしいでしょうか。放送のときにも、全国でトップクラスかもしれないということがありました。それから青柳さん今お2人とおっしゃいましたけど、2人産んだ方には、3人目今知事さんお勧めなんですけど、ちょっとまた奥様と考慮していただければと思います。よろしくお願いします。

それでは、4番目その他なんですけど、事務局の方からその他ございましたらお願いいたします。

【事務局】 では、私の方から2点お願いをしたいと思っております。今後の日程でございまして、9月上旬から中旬をめどに、第2回の県民会議を開催させていただこうと思っておりますので、また後日、日程をお知らせをさせていただきたいと思っております。その際に、議論のテーマということで資料としてお配りしておりますけども、報告様式1と2ということで、様式1が「県政への意見提案シート」ということで、こんなことしたらどうだということでも是非ご意見をいただきたい。

様式2というのが、それぞれの団体で自分たちはこんなことをしている、こういうことはほかのところもしてはどうかということで、それぞれの情報交換なりをさせていただきたいと思っておりますので、この様式1、2について、期日までにまた、こちらの方に提出をいただきたいと思っております。以上でございます。

【会長】 それでは、委員の皆さんから、お1人もご意見いただけなかった方、私いないようにしたつもりなんですけど、よろしいですよ。

それでは、その他というのは、今の事務局からのことだけに限定させていただければというふうに思います。今日は各団体におかれまして、それぞれの立場からいろんな取り組みについての推進を語っていただきました。ありがとうございます。

また皆様には、ただ今、事務局からお願いありましたように、提出いただく書面がございまして。提出期限は8月18日となっておりますので、ご協力方よろしく申し上げます。

それでは、以上をもちまして今日の議事を終了したいと思います。長時間にわたり、議事

の進行に協力していただきましたので、そのことに感謝しまして、以上で私の進行役を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【大津留部長】 皆様、今回は大変示唆に富んだ貴重なご意見を大変ありがとうございました。私ども事務局といたしましても、いろんなボールがございましたけども、しっかりと受け止めて、剛速球もございまして、ちょっと手が痛い思いをしておりますけども、受け止めてできるだけ速やかにすばやく、皆様方あるいは県民の方にお返しをしたいと思っております。ここでお時間の都合で十分に意見が出せなかった方々、いつでも結構です。ご遠慮なく少子化対策課、事務局までご意見をちょうだいいたしたいと思っております。本日は、長時間にわたりまして大変ありがとうございました。

これで、本年度第1回の「おおいた子ども・子育て応援県民会議」を終了いたします。大変ありがとうございました。